

4 意見の概要

テーマ1：賃金水準の向上について

- ・ 支援の在り方として、段階的に賃金水準を上げ、最低賃金 1,000 円以上を目標に速い対応が望ましい。
- ・ 経済特区として、法人税減税や規制緩和をして企業に仕事をしてもらうことで賃金上昇のモデルを作ることができれば、義務教育の秋田モデルのように、賃金上昇の秋田モデルとして売り出していけるのではないか。
- ・ 3年を目途に最低賃金を全国トップクラスに持ち上げ、企業の生産性向上に県が最大限の支援を行い、その差を5年以内になくする。

テーマ2：労働者の確保について

- ・ インパクトのある高賃金化の政策や現状のAターン、Uターン政策の強化、県内教育機関に対するインターン事業やリクルートの強化をすべきである。
- ・ “働きたいのに働けない”人たちが労働力となれる場所が欲しいし、そこから自信に繋げて定着できたらとても良い。現役世代で二の足を踏んで働けない人・働きづらさを抱えている人への実際に労働に結びつくサポートが強く必要である。

テーマ3：水田活用の直接支払交付金の見直しについて

- ・ 補助金ありきの農業政策からの脱却を早急に考えてほしい。
- ・ 農家を会社化し、農業が稼げる職業になり、会社員として就職できるようになれば若年層の就職先の選択肢として十分に考えられるようになる。
- ・ 農業政策は基本的に、TPP批准によって引き出される課題解決の視点、食料安全保障の視点及び環境保全の視点から俯瞰的に行うべきである。

テーマ4：女性が暮らしやすく活躍できる社会の実現について

- ・ 働きながら子育てを頑張る方も安心して働けるよう、土日や夜間も対応できる保育園や病児保育をしてくれる場所がもっとたくさんあればいい。
- ・ 障害児を持つ母親が暮らしやすく活躍できる社会の実現のためには、子どもが周囲に当たり前に受け入れられ、生活できる環境を整えることが必要である。
- ・ 女性が高収入を得られる仕事ができる会社を誘致したり、出産、育児のため離職、退職した女性の再就職のための職業訓練を、オンラインで全て受講できるようにして

ほしい。

テーマ5：ふるさと教育の充実について

- ・ 県内の博物館施設や図書館、公文書館にふるさと教育担当者を増員し、施設間での連携を取った上で学校現場に提供できる情報を揃えたり、そのための指導案モデルを教育委員会や教育センターが作成したらどうか。
- ・ 社会人講師、学芸員経験者、地元経営者など、地域の様々な分野で活動した（している）あるいは地域に貢献したい人にボランティアとしてお願いしたらどうか。

テーマ6：学校給食の無償化について

- ・ 給食費を税金で補うことで、給食費が足りず満足のいく給食が作れないという問題や給食を唯一の栄養、命綱として食べている子供達も救われると思う。
- ・ 高校生への給食提供をしてほしい。校内での調理が難しければ、業者の宅配弁当でも良い。働く母親の負担が減ることで、女性が暮らしやすく活躍できる社会の実現に近づく。
- ・ 給食費無償化が実現すれば、登校している子ども達の家庭の負担が減るのみでなく不登校家庭における家庭での食費及び給食費の二重負担が減るという面にも目を向けてほしい。
- ・ 岩手では高校でも希望すれば給食を選択できるところがある。試験的に行ってみて保護者の反応を活かしてはどうか。

テーマ7：新スタジアム及びアリーナ整備について

- ・ 新スタジアム整備費に多額の公的支援が求められていることに違和感を覚える。Jリーグは現在、新スタジアム建設を前提にJ2ライセンスを交付しているが、本拠地のソユースタジアムをJ1やJ2の施設基準をクリアできるように改修したらよい。
- ・ 日本一とは言わないが、東北一のものをつくり、地域、産業、スポーツ文化を活性化させ人流を呼び込むこと。「県民の誇り」を作り、育てるのに税金を使ってもらいたい。
- ・ 新アリーナこそ外旭川に、新サッカー場は向浜に作ってはどうか。

テーマ８：燃料費や物価の高騰に対する支援について

- ・ 支援しすぎると止め時に困るのではないか。導入は未来へのツケともなるので、よく考えて行ってほしい。
- ・ 国からも補助が欲しい。何でもかんでも“ポイント制”にせず、本当に必要としている世代が生活に活かしやすい施策を取り入れるべきである。

テーマ９：高齢化が進む中での災害対応の在り方について

- ・ 災害弱者が少しでも不安を感じたら避難できる場所として、店舗の一部、空き店舗、町内会館、公共施設など地域の各所に一次的避難所があればいい。自宅に帰れないような災害が発生したときは一般の避難所に移動するシステムを作ったらどうか。
- ・ 豪雨になってからの避難ではなく、余裕を持って避難することが本当に重要であるし、地域で声をかけて伴って行くことも必要である。